

平成27年度 JMAT宮城 研修会

(Japan Medical Association Team)

開催日：平成28年3月28日(月)午後6時30分～

会場：宮城県医師会館(仙台市)

JMATは、日本医師会が組織する災害医療チームで、都道府県医師会ごとにチームを編成し、被災地の医師会からの要請に基づいて、避難所等における医療・健康管理活動を中心として主に災害急性期医療を担う。

宮城県においては、平成26年3月、県内の5団体(医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会・医薬品卸組合)が「JMAT宮城」を立ち上げ、仙台市内において発足式典を開催した。JMATは、都道府県医師会が単独で設立する例が多く、他の医療関連団体が加わるのは珍しい。3年前の発足式典に先立って行われた研修会において、宮城県医薬品卸組合の一條武理事長は、「医薬品卸は、県内に27か所の物流拠点を持ち、災害用医薬品82品目も備蓄している。災害時の迅速な医薬品供給を目指している」と述べ、さらに、「日本の医薬品卸は、毛細血管型物流と言われ、全ての病院・診療所・薬局と取引があり、どこに何があるか、採用品目は何かなどの把握もしていることが強み」と医薬品卸の役割を強調した。

本年3月28日(月)、宮城県医師会館において3回目となる「平成27年度JMAT宮城研修会」が開催され、東日本大震災の発生時、石巻赤十字病院に勤務し、宮城県災害医療コーディネーターであったことから、石巻医療圏の医療救護活動を統括する役割を担った、東北大学病院の石井正教授が講演した。

宮城県医師会の嘉数研二会長は開会の挨拶で、「宮城県には全国から645のJMATがきて、4か月、5か月という長い間、途切れることなく治療・救護を続けてもらった。たいへん感謝している。震災では薬で苦勞をしたから医薬品卸組合に入ってもらった。卸組合が入っているのは宮城県だけだ。ほかのJMATもぜひ見習ってほしい」と経緯を説明した。



会場となった宮城県医師会館



開会の挨拶を行う嘉数会長